Funehiki High School News vol.160

～がんばる船高生～ ATTENTION!

第40回 田村市ＣＭドラマ制作に挑戦！「ふくしま映画塾2020」　菅野里美さん、宗像晃生さん

キャリア教育の一環として毎年開催され、東日本大震災の被災地にエールを送る「ふくしま映画塾」が文化の舘ときわで９月20日から22日に開講されました。今年度は地域の魅力をアピールするCMドラマの制作が行われ、県内の高校生や大学生、本県出身の大学生ら18人が塾生として参加しました。今回は、本校から参加した５人の生徒のうち、１年生の菅野里美さん（岩代中出身）と宗像晃生さん（船引南中出身）の２人に話を聞きました。また、完成した作品は、「福島こどものみらい映画祭」で特別上映されます。

―― なぜ、「ふくしま映画塾」に参加しようと思ったのですか？

菅野さん・宗像さん　普段見ているドラマやＣＭの裏側にある苦労や工夫を知りたかったからです。

―― 動画制作ではどんな役職を務めましたか？

菅野さん　私は主に役者を務めました。ただセリフを言うだけではなく、シーンに合わせて目線や動作、そして感情、全てをリンクさせることが大変でした。大学生の方からアドバイスをもらって演技を工夫しました。

宗像さん　私は監督とカメラマンと役者を務めました。特に監督が楽しかったです。撮影の指揮を執ることは大変でしたが、講師の方からアドバイスをもらいながら撮影を進めました。また、自分からシーンの追加やカメラアングルを提案して、撮影に取り入れることもありました。

―― 撮影中の雰囲気はどうでしたか？

菅野さん　一緒に活動した人のほとんどが初対面ということもあり、最初はお互いに遠慮していましたが、少しずつ意見を出し合えるようになりました。そして、最終的には参加者全員がみんなで作り上げるという意識を強くしていきました。

―― 動画制作の“裏側”を知りたかったとのことですが、実際に体験してどうでしたか？

宗像さん　10分程度の動画制作に２日間撮影をしました。こんなに長い時間をかけて撮影していると思っていなかったので驚きました。また、撮影中は全員で意見を出しながら、作り上げていきました。私たちが普段見ているＣＭも工夫を重ねて作られているのだなと思いました。

―― この経験を今後、どのように生かしていきたいですか？

菅野さん　参加前は人見知りで消極的でしたが、活動を通して積極的に意見を出したり、周囲を見て行動したりすることができるようになりました。私は生徒会役員であるため、今回得たことを生徒会活動でも生かしていきたいです。

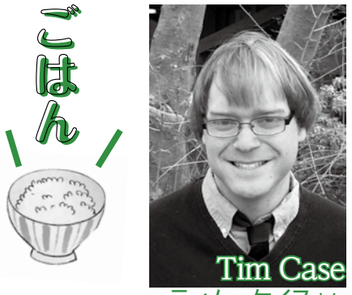
宗像さん　今回の活動から意見を出し合いながら、周囲の意見もしっかり取り入れることの大切さを学びました。そのバランスを大事にして行動していきたいです。

◆体育祭

10月30日、晴天のもと体育祭を行いました。背負いかごにボールを入れる「ボール入れ」を含む三種混合リレーや、宅配便レースなど、生徒会が創意工夫した８種目で白熱した戦いが繰り広げられました。午前中には、たむら支援学校の皆さんとフライングディスクなどを行い交流しました。

福島県立船引高等学校　Tel…0247-82-1511　Fax…0247-82-5233
ＨＰ…https://funehiki-h.fcs.ed.jp　mail…funehiki-h@fcs.ed.jp

海を越えて　英語指導助手ペンリレー　No. 89



ティム・ケイスさん
（アメリカ合衆国
ニューメキシコ州出身）
田村市に来て３年目

子どもの頃、父はニューヨーク市の生活についていろいろ話を聞かせてくれました。

劇場が集まる有名なニューヨーク市のブロードウェイで父は俳優になろうと日夜努力していました。アメリカでは、何千何百もの俳優たちがブロードウェイの舞台に立つことを夢に見、熱望していました。

父から聞いた、忘れられない話があります。それはニューヨーク市にある特別なレストランにとてもおいしいご飯があり、おかずなしにそれだけで食事ができるということでした。子どもながらその話を聞いて恐ろしくなりました。なぜならご飯だけを食べるということが信じられなかったからです。私はアメリカ南西部産の米が好きではありませんでした。私の州で取れる米はとてもパサパサして味がしなかったので、日本食についてくるご飯を皿から取り分けてと母に頼んでいました。幼いながらに、父はお金がなかったからどんな食べ物でもおいしかったのだろうと自分に言い聞かせていました。そして将来、自分がご飯だけをおいしく食べられるようになるだろうかと心配でした。

20年後、農業が主産業で、米が主産物の田村市に来ました。すぐに田村市の米はアメリカのパサパサした米とは異なる種類であることが分かりました。田村市の米はとても粘り気があり、甘さが少しあります。

田村市での最初の数カ月間、食事の40パーセントはご飯でしたがとてもおいしかったです。毎日ご飯を食べても飽きがこないことにとても驚きました。田村市の米はとてもおいしく、しかもとても口当たりが良いのです。ですから今は毎日ご飯を食べていて、日本で一番好きな食べ物の一つになっています。ニューヨーク市にはご飯だけの食事のレストランがあると言った父の話をようやく理解することができました。

ご飯という基本的な食べ物が、とても気持ちの安らぎになるすばらしい食べ物であることは本当に驚きです。

広告欄　Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 経営戦略室（☎0247-81-2117）へ